

科目名	運動器障害・内部障害作業評価学演習				単位数	1	時間数	30	
授業形態	演習	対象学生	OT 3年	学期	前期	教員実務経験	有	使用教室	207教室
授業概要	運動器障害や内部障害を呈する対象者に対する作業療法実施にあたり必要とされる基本的な検査・計測を学習する。								
一般目標	模擬事例を通して評価計画を立案し、評価を実施する知識を習得する。								
テキスト 参考書等	標準作業療法学 身体機能作業療法学第3版(医学書院) 標準作業療法学 作業療法評価学第2版(医学書院)								

到達目標		
知識(認知領域) 必要な検査項目を列挙できる。検査法を説明できる。		
技術(精神運動領域) 検査を実施できる。検査実施後の記録ができる。		
態度(情意領域) グループワークに積極的に参加できる。授業に出席する。		
回数	授業内容	授業目標
1	運動器障害・内部障害の作業療法評価について	評価項目を列挙できる。
2	事例検討 評価計画立案①	評価計画を立案できる。
3	事例検討 評価計画立案②	評価計画を立案できる。
4	事例検討 評価計画立案③	評価計画を立案できる。
5	模擬評価実施(事前確認) 実施しながら検査法を確認する。	検査を実施できる。
6	模擬評価実施(事前確認) 実施しながら検査法を確認する。	検査を実施できる。
7	模擬評価実施① 模擬患者に評価を実施する。	検査を実施できる。
8	模擬評価実施② 模擬患者に評価を実施する。	検査を実施できる。
9	模擬評価実施③ 模擬患者に評価を実施する。	検査を実施できる。
10	模擬評価実施④ 模擬患者に評価を実施する。	検査を実施できる。
11	模擬評価実施⑤ 模擬患者に評価を実施する。	検査を実施できる。
12	模擬評価実施⑥ 模擬患者に評価を実施する。	検査を実施できる。
13	評価結果のまとめと考察①	検査結果を考察できる。
14	評価結果のまとめと考察②	検査結果を考察できる。
15	まとめ 臨床実習の流れと照合しながら確認する。	臨床実習の流れと照合し、検査結果の考察とまとめまでの流れを説明できる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験				評価なし	優(3):80点以上
小テスト				評価なし	良(2):70点以上
宿題授業外レポート		○		100	可(1):60点以上
授業態度				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
発表・作品				評価なし	
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	河本 玲子		実務経験紹介	作業療法士として医療・保健施設、および教育機関での実務経験が20年以上ある。	

科目名	運動器障害作業療法学演習A				単位数	1	時間数	30	
授業形態	演習	対象学生	OT 3年	学期	前期	教員実務経験	有	使用教室	レクリエーション室
授業概要	これまでに学んだ基礎的な身体機能評価法を、実際の患者(対象者)の治療場面を想定し適切に実施する事が出来る。								
一般目標	・自己紹介および対象者の氏名を確認するなどの基本的な対応を修得する。・対象者の状態に合わせた、適切な検査、測定方法を修得する。・検査、測定の目的、方法を対象者に説明し了承を得るなどの、インフォームドコンセントに関する基本的対応を修得する。・検査、測定を適切な方法、時間内で実施する技術を修得する。・検査、測定の結果を適切に対象者に説明する技術を修得する。								
テキスト 参考書等	・標準作業療法学 作業療法評価学(医学書院) ・新・徒手筋力評価法(協同医書出版社)				・標準作業療法学 身体機能作業療法学(医学書院) ・作業療法 技術ガイド(文光堂)				

到達目標	
知識(認知領域)	各評価について、その対象、実施方法、注意事項を理解し説明出来る。
技術(精神運動領域)	各評価について、その方法、場所、時間、使用機材を適切に用い実施出来る。
態度(情意領域)	評価対象者に対し、適切な言葉使い(敬語を使用し専門用語を使用しない)、態度(視線を合わせるなど)が出来る。 医療従事者として適切な身だしなみ(髪型、化粧、服装など)を整える事が出来る。

回数	授業内容	授業目標
1	形態計測	四肢長、四肢周径を正確に行うことが出来る。
2	形態計測	四肢長、四肢周径を正確に行うことが出来る。
3	関節可動域測定	ROM測定の基本を守り、実際の患者を想定し実施する。自己紹介、検査目的の説明、承諾、実施、検査結果の説明を適切に実施出来る。
4	関節可動域測定	ROM測定の基本を守り、実際の患者を想定し実施する。自己紹介、検査目的の説明、承諾、実施、検査結果の説明を適切に実施出来る。
5	関節可動域測定	ROM測定の基本を守り、実際の患者を想定し実施する。自己紹介、検査目的の説明、承諾、実施、検査結果の説明を適切に実施出来る。
6	筋力検査(MMT)②	MMTの基本を守り、実際の患者を想定し実施する。自己紹介、検査目的の説明、承諾、実施、検査結果の説明を適切に実施出来る。
7	筋力検査(MMT)③	MMTの基本を守り、実際の患者を想定し実施する。自己紹介、検査目的の説明、承諾、実施、検査結果の説明を適切に実施出来る。
8	筋力検査(MMT)④	MMTの基本を守り、実際の患者を想定し実施する。自己紹介、検査目的の説明、承諾、実施、検査結果の説明を適切に実施出来る。
9	知覚検査(触覚、痛覚、二点識別覚)	表在覚(触覚、痛覚)、二点識別覚(複合感覚)について、検査の意義・目的、対象、方法、注意事項、使用機材の選定について理解し、実施出来る。
10	知覚検査(触覚、痛覚、二点識別覚)	表在覚(触覚、痛覚)、二点識別覚(複合感覚)について、検査の意義・目的、対象、方法、注意事項、使用機材の選定について理解し、実施出来る。
11	知覚検査(触覚、痛覚、二点識別覚)	表在覚(触覚、痛覚)、二点識別覚(複合感覚)について、検査の意義・目的、対象、方法、注意事項、使用機材の選定について理解し、実施出来る。
12	知覚検査(Semmes-W-M、深部感覚)	微細な感覚を測定するセメス・ワインスタイン・モノフィラメントを使用し、検査の意義・目的、対象、方法、注意事項、使用機材の選定について理解し、実施出来る。また、深部感覚である位置覚・運動覚についても適切に実施出来る。
13	知覚検査(Semmes-W-M、深部感覚)	微細な感覚を測定するセメス・ワインスタイン・モノフィラメントを使用し、検査の意義・目的、対象、方法、注意事項、使用機材の選定について理解し、実施出来る。また、深部感覚である位置覚・運動覚についても適切に実施出来る。
14	上肢機能検査(STEF)	上肢機能検査(STEF)について、検査の意義・目的、対象、方法、注意事項、使用機材の選定について理解し、実施出来る。
15	上肢機能検査(STEF)	上肢機能検査(STEF)について、検査の意義・目的、対象、方法、注意事項、使用機材の選定について理解し、実施出来る。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○		100	優(3):80点以上
小テスト				評価なし	良(2):70点以上
宿題授業外レポート				評価なし	可(1):60点以上
授業態度			○	評価なし	不可(0):60点未満 未修得
発表・作品				評価なし	
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	石丸 拓也・河本玲子		実務経験紹介	作業療法士として医療福祉・教育分野に従事。その間骨折などの運動器疾患のリハビリに携わる。可動域測定、筋力測定、感覚検査などの運動機能に関わる検査を用い治療にあたる。	

科目名	運動器障害作業療法学演習B				単位数	1	時間数	30	
授業形態	演習	対象学生	OT 3年	学期	前期	教員実務経験	有	使用教室	レクリエーション室
授業概要	この授業では運動器障害の治療手段として用いられる基本的な手技を安全・正確に行うことができるようになる事を目標とする。その為には各種評価より得た情報をもとに、対象者のNEEDに沿った適切な治療手技を選択することが求められる。								
一般目標	・自己紹介および対象者の氏名を確認するなどの基本的対応を習得する。・治療の目的、方法を対象者に説明し了承を得るなどの、インフォームドコンセントに関する基本的対応を習得する。・対象者の疾患、状態、Needに合わせた基礎的な治療技術を習得する。・治療を適切な方法、時間内で実施する技術を習得する。								
テキスト 参考書等	標準作業療法学 作業療法評価学(医学書院) / 標準作業療法学 身体機能作業療法学(医学書院) 新・徒手筋力評価法(協同医学出版社) / 作業療法 技術ガイド(文光堂)								

到達目標		
知識(認知領域) 各治療内容について、その対象、実施方法、注意事項を理解し説明出来る。		
技術(精神運動領域) 各治療内容について、その方法、場所、時間、使用機材を適切に用い実施出来る。		
態度(情意領域) 治療対象者に対し、適切な言葉使い(敬語を使用し専門用語を使用しない)、態度(視線を合わせるなど)が出来る。 医療従事者として適切な身だしなみ(髪型、化粧、服装など)を整える。		
回数	授業内容	授業目標
1	オリエンテーション 運動療法とは	運動器疾患における運動療法の意義を理解し説明することが出来る。
2	ボディメカニクス	・ボディメカニクス(身体力学)を学び、身体における運動器(骨・筋・靭帯等)の相互作用を理解し説明できる。 ・運動器疾患の治療、動作指導において、ボディメカニクスを用いることが出来る。
3	関節可動域訓練①(関節包内運動、関節モビライゼーション)	正常な関節を徒手的に動かした際の感触(最終域、緩み、滑り、転がりなど)を体感し理解することが出来る。
4	関節可動域訓練②(関節包内運動、関節モビライゼーション)	関節可動域訓練を学生同士で体験し、適切な触れ方、動かし方、力加減を習得する。
5	関節可動域訓練③(ストレッチング、セルフエクササイズ)	IDストレッチングを用い、ストレッチングの基礎を学ぶ。筋生理学・解剖学を復習・確認しつつ実施出来るようになる。
6	関節可動域訓練④(ストレッチング、セルフエクササイズ)	IDストレッチングを用い、ストレッチングの基礎を学ぶ。筋生理学・解剖学を復習・確認しつつ実施出来るようになる。
7	関節可動域訓練⑤	関節可動域訓練①～④の内容を基に、模擬症例に対する訓練プログラムの立案と実施をすることが出来る。
8	関節可動域訓練⑥	関節可動域訓練①～④の内容を基に、模擬症例に対する訓練プログラムの立案と実施をすることが出来る。
9	筋力増強訓練①	筋収縮・筋力増強のメカニズム、運動負荷とリスクの関連を学び、基礎的な筋力増強訓練を実施出来るようになる。
10	筋力増強訓練②	筋収縮・筋力増強のメカニズム、運動負荷とリスクの関連を学び、基礎的な筋力増強訓練を実施出来るようになる。
11	筋持久力向上訓練③	筋持久力向上のメカニズム、運動負荷とリスクの関連を学び、基礎的な筋力増強訓練を実施出来るようになる。
12	筋持久力向上訓練③	筋持久力向上のメカニズム、運動負荷とリスクの関連を学び、基礎的な筋力増強訓練を実施出来るようになる。
13	感覚・知覚再教育①	感覚障害の原因、症状別感覚・知覚再教育法を学び、適切な訓練方法、用具を選び実施出来るようになる。
14	感覚・知覚再教育②	感覚障害の原因、症状別感覚・知覚再教育法を学び、適切な訓練方法、用具を選び実施出来るようになる。
15	物理療法(PT山本教員)	物理療法の基礎を学び、その方法、効果、禁忌等を学び適切に実施出来るようになる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験		○		100	優(3):80点以上
小テスト				評価なし	良(2):70点以上
宿題授業外レポート				評価なし	可(1):60点以上
授業態度			○	評価なし	不可(0):60点未満 未修得
発表・作品				評価なし	
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	石丸 拓也、山本 悟		実務経験紹介	作業療法士として15年間病院に勤務。その間骨折などの運動器疾患患者のリハビリに携わる(石丸、山本)	

科目名	運動器障害作業療法学演習C				単位数	1	時間数	30	
授業形態	演習	対象学生	OT 3年	学期	前期・後期	教員実務経験	有	使用教室	207教室/レクリエーション室
授業概要	運動器疾患をもつ事例への作業療法の流れを学び、評価計画からプログラム立案までを実施することを目標とする。								
一般目標	臨床実習に向け、演習を通じて運動器疾患をもつ事例への作業療法の流れを修得することができる。								
テキスト 参考書等	標準作業療法学 作業療法評価学 第3版(医学書院) 標準作業療法学 身体機能作業療法学 第3版(医学書院) 作業療法技術ガイド(文光堂)								

到達目標		
知識(認知領域) 運動器疾患を持つ事例に対して治療の流れを列挙しその根拠を説明できる。		
技術(精神運動領域) 運動器疾患を持つ事例に対してプログラム実施計画を立てることができる。		
態度(情意領域) 授業に積極的な態度で参加できる。授業に出席する。		
回数	授業内容	授業目標
1	作業療法における思考・実践のプロセス(濱本)	運動器作業療法における思考・実践プロセスについて理解し、説明することができる。
2	事例検討(グループワーク)(濱本)	運動器作業療法における評価項目と課題の列挙、作業療法計画の立案ができる。
3	事例検討(グループワーク)(濱本)	評価をまとめることができる。
4	事例検討(グループワーク)(濱本)	全体像をまとめることができる。
5	事例検討(グループワーク)(濱本)	全体像からICFシートを作成することができる。
6	事例検討(グループワーク)(濱本)	全体像からICFシートを作成することができる。
7	事例検討(グループワーク)(濱本)	目標を設定することができる。
8	事例検討(グループワーク)(濱本)	プログラム実施計画を立てることができる。
9	まとめ(濱本)	前半の講義をまとめ、説明ができる。
10	オリエンテーション 模擬患者の評価計画(河本)	面接、観察で情報を得ることを前提に、得るべき情報・ADL評価の項目を列挙できる。 対象患者の障害像をイメージし、質問項目や観察項目に優先順位をつけることができる。
11		
12	模擬患者の評価計画、実技練習(河本)	面接、観察で情報を得ることを前提に、得るべき情報・ADL評価の項目を列挙できる。 対象患者の障害像をイメージし、質問項目や観察項目に優先順位をつけることができる。 MMT実施の事前練習ができる。 移乗介助ができる。
13		
14	模擬患者へ評価実施事例のまとめ(河本)	列挙した評価項目について、面接・観察を行うことができる。 対象者に対し、適切な言葉使い、態度ができる。 転倒防止の配慮ができる。
15	レポートフィードバック まとめ	額損患者に対しMMTが実施できる。 レジメに沿って情報を整理することができる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			評価なし	優(3):80点以上
小テスト				評価なし	良(2):70点以上
宿題授業外レポート	○			75	可(1):60点以上
授業態度			○	評価なし	不可(0):60点未満 未修得
発表・作品	○			20	
演習		○		5	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	濱本 尊博、河本 玲子		実務経験紹介	作業療法士として7年間以上病院に勤務。その間、運動器疾患患者への作業療法実践経験あり(濱本)	

科目名	運動器障害作業療法学演習D				単位数	1	時間数	30	
授業形態	実習	対象学生	OT 3年	学期	後期	教員実務経験	有	使用教室	207教室・レク室
授業概要	臨床実習では対象者に対して適切な評価・治療を実施する必要がある。本授業では客観的臨床能力試験(OSCE)を通じて作業療法に必要な主要な評価・治療方法を学習する。								
一般目標	・各種評価、治療を実施する技術を身につける。								
テキスト参考書等	なし								

到達目標	
知識(認知領域)	・各種評価、治療の方法について説明できる。
技術(精神運動領域)	・各種評価、治療を実施できる。
態度(情意領域)	・授業に積極的に参加することができる。(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と討議する) ・授業に出席する。

回数	授業内容	授業目標
1	OSCE概要について 第1回OSCEオリエンテーション・事前指導	OSCEの概要について説明できる。 第1回OSCEに向けて計画を立てることができる。
2	模倣①医療面接	対象者に医療面接を実施できる。
3	模倣②反射	対象者に反射検査を実施できる。
4	模倣③BRSテスト	対象者にBRSテストを実施できる。
5	模倣④感覚検査	対象者に感覚検査を実施できる。
6	模倣⑤ROM測定	対象者にROM測定を実施できる。
7	客観的臨床能力試験(OSCE)まとめ	第1回OSCEの内容を振り返り、課題解決に向けた計画立案ができる。
8	第1回OSCEフィードバック	第1回OSCEの内容を振り返り、課題解決に向けた計画立案ができる。
9	第2回OSCEオリエンテーション・事前指導	OSCEの概要について説明できる。 第2回OSCEに向けて計画を立てることができる。
10	模倣⑥起き上がり	対象者に起き上がり指導を実施できる。
11	模倣⑦起立・着座	対象者に起立・着座指導を実施できる。
12	模倣⑧移乗動作	対象者に移乗動作指導を実施できる。
13	模倣⑨車椅子駆動	対象者に車椅子駆動指導を実施できる。
14	模倣⑩更衣(上衣)動作	対象者に更衣(上衣)動作指導を実施できる。
15	第2回OSCEフィードバック	第2回OSCEの内容を振り返り、課題解決に向けた計画立案ができる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○		100	優(3):80点以上
小テスト				評価なし	良(2):70点以上
宿題授業外レポート				評価なし	可(1):60点以上
授業態度				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
発表・作品				評価なし	
演習		○		評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	濱本 尊博、石丸 拓也、他		実務経験紹介	各担当者が各領域での作業療法を実践した経験を10年以上有している(濱本、石丸)。	

科目名	神経障害作業療法学演習A				単位数	1	時間数	30	
授業形態	演習	対象学生	OT 3年	学期	前期	教員実務経験	有	使用教室	レクリエーション室
授業概要	神経障害に対する基本的な検査についての基本的知識・技術を学習する。								
一般目標	脳血管障害、外傷性脳損傷、高次脳機能障害に対する検査について、基本的技術を習得する。								
テキスト 参考書等	教科書:神経診察クローズアップ 改訂第2版 (メジカルビュー社)								

到達目標		
知識(認知領域) ・授業で取り上げた検査について、その目的や内容について説明できる。		
技術(精神運動領域) ・授業で取り上げた検査について、正確かつ迅速に実施できる。		
態度(情意領域) ・授業に積極的な態度で参加できる。 ・授業に出席する。		
回数	授業内容	授業目標
1	脳神経検査①	脳神経検査の意義・目的・方法について説明し、実施できる。
2	脳神経検査②	脳神経検査の意義・目的・方法について説明し、実施できる。
3	脳神経検査③	脳神経検査の意義・目的・方法について説明し、実施できる。
4	脳神経検査④	脳神経検査の意義・目的・方法について説明し、実施できる。
5	筋緊張検査①	筋緊張検査の意義・目的・方法について説明し、実施できる。
6	筋緊張検査②	筋緊張検査の意義・目的・方法について説明し、実施できる。
7	協調性検査①	協調性検査の意義・目的・方法について説明し、実施できる。
8	協調性検査②	協調性検査の意義・目的・方法について説明し、実施できる。
9	バランス検査①	バランス検査の意義・目的・方法について説明し、実施できる。
10	バランス検査②	バランス検査の意義・目的・方法について説明し、実施できる。
11	反射検査①	反射検査の意義・目的・方法について説明し、実施できる。
12	反射検査②	反射検査の意義・目的・方法について説明し、実施できる。
13	脳卒中上肢機能検査①	脳卒中上肢機能検査の意義・目的・方法について説明し、実施できる。
14	脳卒中上肢機能検査②	脳卒中上肢機能検査の意義・目的・方法について説明し、実施できる。
15	まとめ	授業で取り上げた評価が実施できる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGPA点数
小テスト				評価なし	
宿題授業外レポート				評価なし	
授業態度				評価なし	
発表・作品				評価なし	
演習		○		評価なし	
出席			○	欠格条件	
担当教員	濱本 尊博		実務経験紹介	作業療法士として7年間一般病院に勤務し、神経疾患・神経筋疾患の作業療法評価を実施。	

科目名	神経障害作業療法学演習B				単位数	1	時間数	30	
授業形態	演習	対象学生	OT 3年	学期	前期	教員実務経験	有	使用教室	207教室
授業概要	神経障害を呈する対象者に対する作業療法実施にあたって必要とされる基本的知識・技術を学習する。								
一般目標	神経障害を呈する対象者に対する作業療法実施にあたって必要とされる基本的知識・技術を習得する。								
テキスト 参考書等	脳卒中最前線 第4版 (医歯薬出版株式会社)								

到達目標		
知識(認知領域) 神経障害を呈する対象者に対する作業療法実施にあたって必要とされる知識を習得できる。		
技術(精神運動領域) 神経障害を呈する対象者に対する作業療法実施にあたっての治療計画を立案できる。		
態度(情意領域) 授業に積極的な態度で参加できる。 授業に出席する。		
回数	授業内容	授業目標
1	脳性麻痺に対する作業療法 ①(新庄)	脳性麻痺児についての概要を説明することができる。
2	脳性麻痺に対する作業療法 ②(新庄)	脳性麻痺児に対する作業療法についての評価と治療プログラムを説明することができる。
3	自閉症に対する作業療法 ③(新庄)	自閉症についての概要を説明することができる。
4	自閉症に対する作業療法 ④(新庄)	自閉症に対する作業療法についての評価と治療プログラムを説明することができる。
5	脳性麻痺に対する作業療法 ⑤(新庄)	脳性麻痺児に対する作業療法についての治療実践を考えることができる。
6	自閉症に対する作業療法 ⑥(新庄)	自閉症に対する作業療法についての治療実践を考えることができる。
7	脳性麻痺に対する作業療法の実践 ①	脳性麻痺事例に対する作業療法について説明し、評価項目を考えることができる。
8	脳性麻痺に対する作業療法の実践 ②	脳性麻痺事例に対する作業療法について説明し、評価項目を考えることができる。
9	脳性麻痺に対する作業療法の実践 ③	脳性麻痺事例に対する作業療法について説明し、評価項目を考えることができる。
10	脳性麻痺のケーススタディ	脳性麻痺事例に対する作業療法についての治療計画を立案できる。
11	自閉症スペクトラム障害に対する作業療法の実践 ①	自閉症スペクトラム障害事例に対する作業療法について説明し、評価項目を考えることができる。
12	自閉症スペクトラム障害に対する作業療法の実践 ②	自閉症スペクトラム障害事例に対する作業療法について説明し、評価項目を考えることができる。
13	自閉症スペクトラム障害に対する作業療法の実践 ③	自閉症スペクトラム障害事例に対する作業療法について説明し、評価項目を考えることができる。
14	自閉症スペクトラム障害のケーススタディ	自閉症スペクトラム事例に対する作業療法についての治療計画を立案できる。
15	まとめ	全講義を振り返り、各疾病への作業療法について説明、評価項目が列挙できる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験				評価なし	優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGPA点数
小テスト				評価なし	
宿題授業外レポート	○			100	
授業態度				評価なし	
発表・作品				評価なし	
演習		○		評価なし	
出席			○	欠格条件	
担当教員	濱本 尊博、新庄 玉恵		実務経験紹介	作業療法士として7年間一般病院に勤務し、神経疾患・神経筋疾患の作業療法評価を実施(濱本、新庄)。	

科目名	神経障害作業療法学演習C				単位数	1	時間数	30	
授業形態	演習	対象学生	OT 3年	学期	前期	教員実務経験	有	使用教室	301教室・レク室
授業概要	高次脳機能障害を有する方に対する作業療法の評価法の詳細や介入法の知識を学習する。								
一般目標	・高次脳機能障害を有する方に作業療法を実施する際必要とされる検査を実施する知識・技術を習得する。 ・事例検討を通して作業療法評価を立案する知識を習得する。								
テキスト 参考書等	標準作業療法学 高次脳機能作業療法学(医学書院)								

到達目標		
知識(認知領域) 各検査の実施方法を説明できる。事例検討に必要な情報を説明できる。		
技術(精神運動領域) 検査を実施できる。 事例検討のまとめをレジュメとして作成できる。		
態度(情意領域) 積極的な態度で授業に、参加しグループワークを行うことができる。授業に出席する。		
回数	授業内容	授業目標
1	事例検討① 模擬事例提示。内容を理解するために調べ学習する。	担当した内容を調べることができる。また、それらを説明できる。
2	事例検討② 内容を理解するために調べ学習する。	担当した内容を調べることができる。また、それらを説明できる。
3	事例検討③ 情報の整理	情報に優先順位をつけることができる。
4	事例検討④ 情報の整理	情報に優先順位をつけることができる。
5	事例検討⑤ 作業療法評価計画立案	情報から作業療法評価を立案できる。
6	事例検討⑥ 作業療法評価計画立案	情報から作業療法評価を立案できる。
7	授業オリエンテーション 検査実施準備	担当の検査実施の準備ができる。
8	模擬患者へ検査実施(記憶・注意・視覚認知・空間認知・前頭葉機能・スクリーニング) ※上記内容を7回に分けて実施する。	担当の検査を模擬患者へ実施できる。見学者は積極的に参加し、見学を通して検査の内容を説明できるようになる。
9	模擬患者へ検査実施(記憶・注意・視覚認知・空間認知・前頭葉機能・スクリーニング) ※上記内容を7回に分けて実施する。	担当の検査実施の準備ができる。
10	模擬患者へ検査実施(記憶・注意・視覚認知・空間認知・前頭葉機能・スクリーニング) ※上記内容を7回に分けて実施する。	担当の検査を模擬患者へ実施できる。見学者は積極的に参加し、見学を通して検査の内容を説明できるようになる。
11	模擬患者へ検査実施(記憶・注意・視覚認知・空間認知・前頭葉機能・スクリーニング) ※上記内容を7回に分けて実施する。	担当の検査を模擬患者へ実施できる。見学者は積極的に参加し、見学を通して検査の内容を説明できるようになる。
12	模擬患者へ検査実施(記憶・注意・視覚認知・空間認知・前頭葉機能・スクリーニング) ※上記内容を7回に分けて実施する。	担当の検査を模擬患者へ実施できる。見学者は積極的に参加し、見学を通して検査の内容を説明できるようになる。
13	模擬患者へ検査実施(記憶・注意・視覚認知・空間認知・前頭葉機能・スクリーニング) ※上記内容を7回に分けて実施する。	担当の検査を模擬患者へ実施できる。見学者は積極的に参加し、見学を通して検査の内容を説明できるようになる。
14	模擬患者へ検査実施(記憶・注意・視覚認知・空間認知・前頭葉機能・スクリーニング) ※上記内容を7回に分けて実施する。	担当の検査を模擬患者へ実施できる。見学者は積極的に参加し、見学を通して検査の内容を説明できるようになる。
15	まとめ 評価実習の流れと照合しながら確認する。	評価実習の流れと照合して評価計画立案までの流れを説明できる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験				評価なし	優(3):80点以上
小テスト				評価なし	良(2):70点以上
宿題授業外レポート	○			50	可(1):60点以上
授業態度				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
発表・作品			○	50	
演習		○		評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	上原 奈緒子		実務経験紹介	作業療法士として医療・保健施設、および教育機関での実務経験が20年以上ある。	

科目名	精神障害作業療法学演習				単位数	1	時間数	30	
授業形態	演習	対象学生	OT 3年	学期	前期・後期	教員実務経験	有	使用教室	207教室
授業概要	精神科病院や施設に勤務する作業療法士から、実際の臨床現場での実践を聞き、作業療法士の専門性を理解することを求める。また、精神科作業療法で用いられる各治療法を知り、実習などで実践することを求めたい。								
一般目標	精神疾患の各回復状態における作業療法の実践を学び、作業療法士の役割・存在意義を理解する。履修内容を説明する。								
テキスト参考書等	適宜プリント配布								

到達目標		
知識(認知領域) 各領域における作業療法士の役割を説明することができる。		
技術(精神運動領域) 受講後に、自分なりの考えを述べるができる。		
態度(情意領域) 演習に真面目な態度で取り組むことができる。		
回数	授業内容	授業目標
1	精神科作業療法(入院医療)における作業療法士の役割(武藤多鶴子)前期	入院医療における作業療法の実践を説明することができる。
2	精神科作業療法(入院医療)における作業療法士の役割(武藤多鶴子)前期	入院医療における作業療法の実践を説明することができる。
3	精神科作業療法(入院医療)における作業療法士の役割(武藤多鶴子)前期	入院医療における作業療法の実践を説明することができる。
4	精神科作業療法(入院医療)における作業療法士の役割(武藤多鶴子)前期	入院医療における作業療法の実践を説明することができる。
5	精神科デイケア(通院医療)における作業療法士の役割(渡辺史朗)前期	通院医療における作業療法の実践を説明することができる。
6	精神科デイケア(通院医療)における作業療法士の役割(渡辺史朗)前期	通院医療における作業療法の実践を説明することができる。
7	精神科デイケア(通院医療)における作業療法士の役割(渡辺史朗)前期	通院医療における作業療法の実践を説明することができる。
8	精神科デイケア(通院医療)における作業療法士の役割(渡辺史朗)前期	通院医療における作業療法の実践を説明することができる。
9	地域における作業療法士の役割(友村裕子)後期	地域や就労支援における作業療法の実践を説明することができる。
10	地域における作業療法士の役割(友村裕子)後期	地域や就労支援における作業療法の実践を説明することができる。
11	地域における作業療法士の役割(友村裕子)後期	地域や就労支援における作業療法の実践を説明することができる。
12	地域における作業療法士の役割(友村裕子)後期	地域や就労支援における作業療法の実践を説明することができる。
13	急性期精神科作業療法の実践(土田敦子)後期	急性期病院における作業療法の実践を説明することができる。
14	急性期精神科作業療法の実践(土田敦子)後期	急性期病院における作業療法の実践を説明することができる。
15	急性期精神科作業療法の実践(土田敦子)後期	急性期病院における作業療法の実践を説明することができる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験				評価なし	優(3):80点以上
小テスト				評価なし	良(2):70点以上
宿題授業外レポート	○			100	可(1):60点以上
授業態度			○	評価なし	不可(0):60点未満 未修得
発表・作品				評価なし	
演習		○		評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	武藤 多鶴子、渡辺 史郎、他		実務経験紹介	精神科病院にて精神科作業療法に10年以上従事している(武藤、渡辺・他)。	

科目名	地域作業療法学演習				単位数	1	時間数	30	
授業形態	演習	対象学生	OT 3年	学期	前期	教員実務経験	有	使用教室	207教室
授業概要	作業療法の対象領域として地域作業療法は、今後さらに広がりをもせる領域である。そのような領域で作業療法士として活躍するために必要な知識と具体的な実践事例を学ぶ。								
一般目標	地域作業療法の役割を学び、作業療法を実践するための計画立案を身につける。								
テキスト 参考書等	地域リハビリテーション論 Ver.7(三輪書店)								

到達目標		
知識(認知領域) ・地域作業療法の役割を説明できる。		
技術(精神運動領域) ・ケアプランが作成できる。		
態度(情意領域) ・授業に参加できる。		
回数	授業内容	授業目標
1	オリエンテーション	講義の概要を説明できる。
2	急性期・回復期実践	急性期・回復期における作業療法の実践事例を学び、説明できる。
3	介護老人保健施設実践	介護老人保健施設における作業療法の実践事例を学び、説明できる。
4	介護老人保健施設実践	介護老人保健施設における作業療法の実践事例を学び、説明できる。
5	通所リハビリテーション実践	通所リハビリテーションにおける作業療法の実践事例を学び、説明できる。
6	訪問リハビリテーション実践	訪問リハビリテーションにおける作業療法の実践事例を学び、説明できる。
7	介護予防事業と地域リハ実践	介護予防事業と地域リハビリテーションにおける作業療法の実践事例を学び、説明できる。
8	認知症の作業療法実践と事例	認知症の方への作業療法の実践事例を学び、説明できる。
9	終末期への関わり	終末期における作業療法の実践事例を学び、説明できる。
10	グループワーク(在宅ケアプラン作成)	在宅ケアプランを作成できる。
11	グループワーク発表	ケアプランが発表できる。
12	グループワーク(入所ケアプラン作成)	入所ケアプランを作成できる。
13	グループワーク(入所ケアプラン作成)	入所ケアプランを作成できる。
14	グループワーク発表	ケアプランが発表できる。
15	まとめ	講義を振り返り、これまで学んだ内容が復習できる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得
小テスト				評価なし	
宿題授業外レポート				評価なし	
授業態度				評価なし	
発表・作品				評価なし	
演習		○		評価なし	
出席			○	欠格条件	
担当教員	信久 美佐子		実務経験紹介	約30年作業療法士として主に介護保険下での地域リハビリテーションに専従している。	

科目名	基礎作業治療技術論A				単位数	1	時間数	15	
授業形態	講義	対象学生	OT 3年	学期	前期	教員実務経験	有	使用教室	207教室・ADL室・レク室
授業概要	日常生活活動(動作)について学ぶ。また、基本的な日常生活活動(動作)を観察し、分析する。また、作業療法士国家試験過去問題(基礎医学、臨床医学、OT専門)を使用し、作業療法への理解を深める機会とする。								
一般目標	基本的な日常生活活動(動作)を理解し、それらの活動が遂行できる基本的援助法を学び、修得する。作業療法士国家試験過去問題を解くことができる。								
テキスト参考書等	PT・OTビジュアルテキスト ADL 第1版(羊土社) / (参考書)動作分析 臨床活用講座(MEDICAL VIEW)、基礎固めヒント式トレーニング 基礎編(南江堂)								

到達目標		
知識(認知領域) ・日常生活活動(動作)が説明できる。・基本的な日常生活活動(動作)の観察・分析結果を記述化できる。・国家試験過去問題を正しく解くことができる、また解説できる。		
技術(精神運動領域) ・日常生活活動(動作)が観察できる。・日常生活活動(動作)の基本的援助法を修得できる。		
態度(情意領域) ・授業に意欲的に参加できる。・課題を指定日までに提出できる。		
回数	授業内容	授業目標
1	オリエンテーション 日常生活活動(動作)(総論)	講義の概要を理解できる。 日常生活活動(動作)について説明できる。
2	日常生活活動(動作)(各論)	日常生活活動(動作)の基本動作が説明できる。また、観察できる。
3	基礎医学、臨床医学、OT専門の学習と習熟度確認(1)	基礎医学(解剖学・生理学、運動学、その他)、臨床医学(内科学等)、OT専門の国家試験過去問題を解くことができる。また、習熟度テスト(CBT)が100%で終了できる。
4	日常生活活動(動作)(各論)	日常生活活動(動作)の基本動作(寝返り、起き上がり、立ち上がり、歩行)を観察し、分析できる。
5	日常生活活動(動作)の基本的援助法	寝返り、起き上がり動作の援助(脳卒中片麻痺を例に)が修得できる。
6	基礎医学、臨床医学、OT専門の学習と習熟度確認(2)	基礎医学(解剖学・生理学、運動学、その他)、臨床医学(内科学等)、OT専門の国家試験過去問題を解くことができる。また、習熟度テスト(CBT)が100%で終了できる。
7	日常生活活動(動作)の基本的援助法	立ち上がり～移乗動作の援助(脳卒中片麻痺を例に)が修得できる。
8	基礎医学、臨床医学、OT専門の学習と習熟度確認(3)	基礎医学(解剖学・生理学、運動学、その他)、臨床医学(内科学等)、OT専門の国家試験過去問題を解くことができる。また、習熟度テスト(CBT)が100%で終了できる。
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	優(3):80点以上
小テスト				評価なし	良(2):70点以上
宿題授業外レポート				評価なし	可(1):60点以上
授業態度				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
発表・作品				評価なし	
演習		○		評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	東野 幸夫		実務経験紹介	作業療法士として身体障害、高齢期障害など幅広い領域での勤務経験あり。	

科目名	基礎作業治療技術論B			単位数	1	時間数	15		
授業形態	講義	対象学生	OT 3年	学期	前期	教員実務経験	有	使用教室	207教室・ADL室・レク室
授業概要	日常生活活動(動作)(主に、セルフケア)について学ぶ。また、日常生活活動(動作)(主に、セルフケア)を観察し、分析する。また、作業療法士国家試験過去問題(基礎医学、臨床医学、OT専門)を使用し、作業療法への理解を深める機会とする。								
一般目標	基日常生活活動(セルフケア)を遂行するための心身機能、影響因子を理解する。また、活動制限への援助法を理解する。作業療法士国家試験過去問題を解くことができる。								
テキスト参考書等	PT・OTビジュアルテキスト ADL 第1版(羊土社) / (参考書)基礎固めヒント式トレーニング 基礎編(南江堂)								

到達目標	
知識(認知領域)	・日常生活活動(動作)(主に、セルフケア)の特徴を説明できる。・日常生活活動(動作)(主に、セルフケア)の観察・分析結果を記述化できる。・国家試験過去問題を正しく解くことができる、また解説できる。
技術(精神運動領域)	・日常生活活動(動作)(主に、セルフケア)を観察できる。・日常生活活動(動作)(主に、セルフケア)の基本的援助法を修得できる。
態度(情意領域)	・授業に意欲的に参加できる。・課題を指定日までに提出できる。

回数	授業内容	授業目標
1	オリエンテーション 日常生活活動(総論-復習-)	講義の概要を理解できる。 日常生活活動(動作)について説明できる。
2	日常生活活動の特徴と障害別の支援例(1)	日常生活活動(動作)(食事動作等)の特徴を説明できる。
3	基礎医学、臨床医学、OT専門の学習と習熟度確認(1)	基礎医学(解剖学・生理学、運動学、その他)、臨床医学(内科学等)、OT専門の国家試験過去問題を解くことができる。また、習熟度テスト(CBT)が100%で終了できる。
4	日常生活活動の特徴と障害別の支援例(2)	日常生活活動(動作)(食事動作等)の特徴を説明できる。
5	日常生活活動の特徴と障害別の支援例(3)	日常生活活動(動作)(食事動作等)の特徴を説明できる。
6	基礎医学、臨床医学、OT専門の学習と習熟度確認(2)	基礎医学(解剖学・生理学、運動学、その他)、臨床医学(内科学等)、OT専門の国家試験過去問題を解くことができる。また、習熟度テスト(CBT)が100%で終了できる。
7	日常生活活動の特徴と障害別の支援例(4)	日常生活活動(動作)(食事動作等)の特徴を説明できる。
8	基礎医学、臨床医学、OT専門の学習と習熟度確認(3)	基礎医学(解剖学・生理学、運動学、その他)、臨床医学(内科学等)、OT専門の国家試験過去問題を解くことができる。また、習熟度テスト(CBT)が100%で終了できる。
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	優(3):80点以上
小テスト				評価なし	良(2):70点以上
宿題授業外レポート				評価なし	可(1):60点以上
授業態度				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
発表・作品				評価なし	
演習		○		評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	東野 幸夫		実務経験紹介	作業療法士として身体障害、高齢期障害など幅広い領域での勤務経験あり。	

科目名	基礎作業治療技術論C				単位数	1	時間数	15	
授業形態	講義	対象学生	OT 3年	学期	前期	教員実務経験	有	使用教室	207教室
授業概要	臨床実習に向けて、評価、焦点化、目標設定、治療計画までの流れを事例を通じて理解できることを求める。期末試験は持込で実施するが、1コマ毎の内容を把握、記録していなければ解答することはできない。自主的、積極的な受講態度を望む。								
一般目標	臨床実習に向け、評価から治療計画・考察までの流れを理解する。								
テキスト参考書等	<ul style="list-style-type: none"> ・精神障害と作業療法 新版(三輪書店) ・精神疾患の理解と精神科作業療法 第2版(中央法規) ・作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 精神障害作業療法学(メジカルビュー社) 								

到達目標		
知識(認知領域) 精神科作業療法実践に必要な知識を列挙し、問われた際に説明することができる。		
技術(精神運動領域) ケースに見合った治療方法を計画・立案できる。 治療計画理由(考察)を第三者が理解しやすいようにまとめることができる。		
態度(情意領域) グループワークで自身の意見を述べ、他者の意見を受容することができる。		
回数	授業内容	授業目標
1	ケーススタディ 事例提示	事例の情報を読み取り、ICFシートに整理することができる。
2	ICFで全体像をまとめる	事例の情報を読み取り、ICFシートに整理することができる。
3	ICFで全体像をまとめる	肯定的、否定的側面を列挙することができる。
4	作業療法焦点化	作業療法のターゲットとなる側面を列挙することができる。
5	作業療法焦点化	作業療法のターゲットとなる側面を列挙することができる。
6	目標設定	リハゴールを基盤とした作業療法目標を考案することができる。
7	治療プログラム立案	目標を達成するための治療を計画することができる。
8	治療プログラム立案	目標を達成するための治療を計画することができる。
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得
小テスト				評価なし	
宿題授業外レポート				評価なし	
授業態度				評価なし	
発表・作品				評価なし	
演習		○		評価なし	
出席			○	欠格条件	
担当教員	渡辺 慎介		実務経験紹介	精神科病院・高齢期施設での勤務経験(8年)と現在刑務所非常勤(2年)で精神障害者に対する治療を経験。	

科目名	作業治療技術論				単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	OT3年	学期	前期・後期	教員実務経験	有	使用教室	207教室
授業概要	領域回復期別の作業療法の現状を学ぶ。								
一般目標	臨床実習に向けて、実際の臨床現場で行われている作業療法の目的やプロセスを理解し、臨床実習での実践力を身につける。								
テキスト 参考書等	適宜資料配布								

到達目標		
知識(認知領域) 各領域における作業療法の目的やプロセスを説明できる。		
技術(精神運動領域) なし		
態度(情意領域) 授業に積極的な態度で参加できる。 授業に出席する。		
回数	授業内容	授業目標
1	急性期における作業療法の実際①(池田)	急性期領域における作業療法の目的やプロセスについて説明できる。
2	急性期における作業療法の実際①(池田)	急性期領域における作業療法の目的やプロセスについて説明できる。
3	急性期における作業療法の実際②(吉長)	急性期領域における作業療法の目的やプロセスについて説明できる。
4	急性期における作業療法の実際②(吉長)	急性期領域における作業療法の目的やプロセスについて説明できる。
5	回復期における作業療法の実際①(岡藤)	回復期領域における作業療法の目的やプロセスについて説明できる。
6	回復期における作業療法の実際①(岡藤)	回復期における作業療法の目的やプロセスについて説明できる。
7	回復期における作業療法の実際②(国居)	回復期領域における作業療法の目的やプロセスについて説明できる。
8	回復期における作業療法の実際②(国居)	回復期領域における作業療法の目的やプロセスについて説明できる。
9	高齢期における作業療法の実際①(古谷)	高齢期領域における作業療法の目的やプロセスについて説明できる。
10	高齢期における作業療法の実際①(古谷)	高齢期領域における作業療法の目的やプロセスについて説明できる。
11	高齢期における作業療法の実際②(片岡)	高齢期領域における作業療法の目的やプロセスについて説明できる。
12	高齢期における作業療法の実際②(片岡)	高齢期領域における作業療法の目的やプロセスについて説明できる。
13	精神科病院における作業療法の実際(土田)	精神科領域における作業療法の目的やプロセスについて説明できる。
14	精神科病院における作業療法の実際(土田)	精神科領域における作業療法の目的やプロセスについて説明できる。
15	まとめ(渡辺)	合計7講師による講義を受けての感想や今後の実習に向けてどう取り組むかをまとめ、説明することができる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験				評価なし	優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得
小テスト				評価なし	
宿題授業外レポート	○			100	
授業態度				評価なし	
発表・作品				評価なし	
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	
担当教員	渡辺 慎介、吉長 卓真、他		実務経験紹介	精神科作業療法・高齢期作業療法(8年間)に従事し、現在は刑務所に非常勤勤務(2年間)(渡辺)。	

科目名	社会生活行為向上マネジメント論				単位数	1	時間数	15	
授業形態	講義	対象学生	OT 3年	学期	前期	教員実務経験	有	使用教室	207教室
授業概要	国や日本作業療法士協会は生活行為向上マネジメント(MTDLP)を活用した実践を求めている。MTDLPを理解できていないことは恥ずべきことと捉えられる。本科目ではMTDLPの意義やプロセスを理解し、演習につなげるための基礎知識習得を目指す。								
一般目標	生活行為向上マネジメントのプロセスを理解する。								
テキスト 参考書等	事例で学ぶ生活行為向上マネジメント(一般社団法人日本作業療法士協会編著) その他 適宜、プリント配布								

到達目標		
知識(認知領域) MTDLPの意義やプロセスを説明できる。		
技術(精神運動領域) 認知領域で得た知識や考え方を基に、自身の考えを表現、説明できる。		
態度(情意領域) 面接演習では節度ある態度で臨むことができる。		
回数	授業内容	授業目標
1	生活行為向上マネジメント(MTDLP)概論	MTDLPの背景や意義を説明できる。
2	MTDLPの流れと各シートの説明	①生活行為聞き取りシート②生活行為アセスメント演習シート③生活行為向上プラン演習シート④興味・関心チェックシート⑤生活行為課題分析シート⑥生活行為申し送り表の内容やプロセスを説明できる。
3	MTDLPの流れと各シートの説明	①生活行為聞き取りシート②生活行為アセスメント演習シート③生活行為向上プラン演習シート④興味・関心チェックシート⑤生活行為課題分析シート⑥生活行為申し送り表の内容やプロセスを説明できる。
4	MTDLPの流れと各シートの説明	①生活行為聞き取りシート②生活行為アセスメント演習シート③生活行為向上プラン演習シート④興味・関心チェックシート⑤生活行為課題分析シート⑥生活行為申し送り表の内容やプロセスを説明できる。
5	アセスメント、プランシートの詳細説明	それぞれのシートの流れを説明できる。
6	生活行為聞き取りシートを用いた面接経験	シートの手順を正確に追えることができる。
7	作業に焦点を当てた事例報告	MTDLPを活用する意義、作業に焦点を当てることとは何かを説明できる。
8	まとめ	MTDLPを基に、今後の作業療法士の専門性を討論することができる。
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			90	優(3):80点以上
小テスト				評価なし	良(2):70点以上
宿題授業外レポート				評価なし	可(1):60点以上
授業態度			○	評価なし	不可(0):60点未満 未修得
発表・作品				評価なし	
演習		○		評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	渡辺 慎介		実務経験紹介	MTDLP基礎研修修了	

科目名	社会生活行為向上マネジメント演習				単位数	1	時間数	30	
授業形態	演習	対象学生	OT 3年	学期	前期・後期	教員実務経験	有	使用教室	207教室
授業概要	生活行為向上マネジメント(MTDLP)は教科書を読み進めるだけでは到底理解できない。事例を通して、そのプロセスを理解し、実習でも活用できるようになることを求める。グループケアを学び、家族を含めた支援の重要性を理解することを求める。								
一般目標	生活行為向上マネジメントのプロセスを理解する。 1ケースに対するチームアプローチの重要性や他職種の視点を理解する。								
テキスト 参考書等	事例で学ぶ生活行為向上マネジメント(一般社団法人日本作業療法士協会編著) その他 適宜、プリント配布								

到達目標		
知識(認知領域) MTDLPの流れや各シートの使用方法や目的を説明できる。グループケアの概要と意義を説明できる。		
技術(精神運動領域) MTDLPのプロセスはもちろんのこと、事例の情報(一般・医学的)から全体像を読み取り、それを説明することができる。		
態度(情意領域) グループワークに真摯に取り組み、他者の意見を尊重し、かつ自身の考えを述べるができる。		
回数	授業内容	授業目標
1	実践事例紹介(鈴木)	事例の情報をアセスメントシートに整理し、プランシートを基に適切な支援方法を考案することができる。
2	実践事例紹介(鈴木)	事例の情報をアセスメントシートに整理し、プランシートを基に適切な支援方法を考案することができる。
3	MTDLP演習(鈴木) 身障、高齢期領域	事例の情報をアセスメントシートに整理し、プランシートを基に適切な支援方法を考案することができる。
4	MTDLP演習(鈴木) 身障、高齢期領域	事例の情報をアセスメントシートに整理し、プランシートを基に適切な支援方法を考案することができる。
5	MTDLP演習(鈴木) 身障、高齢期領域	事例の情報をアセスメントシートに整理し、プランシートを基に適切な支援方法を考案することができる。
6	MTDLP演習(鈴木) 身障、高齢期領域	事例の情報をアセスメントシートに整理し、プランシートを基に適切な支援方法を考案することができる。
7	MTDLP演習(鈴木) 身障、高齢期領域	事例の情報をアセスメントシートに整理し、プランシートを基に適切な支援方法を考案することができる。
8	MTDLP演習(鈴木) 身障、高齢期領域	事例の情報をアセスメントシートに整理し、プランシートを基に適切な支援方法を考案することができる。
9	MTDLP演習(渡辺) 精神領域	事例の情報をアセスメントシートに整理し、プランシートを基に適切な支援方法を考案することができる。
10	MTDLP演習(渡辺) 精神領域	事例の情報をアセスメントシートに整理し、プランシートを基に適切な支援方法を考案することができる。
11	MTDLP演習(渡辺) 精神領域	事例の情報をアセスメントシートに整理し、プランシートを基に適切な支援方法を考案することができる。
12	MTDLP演習(渡辺) 精神領域	事例の情報をアセスメントシートに整理し、プランシートを基に適切な支援方法を考案することができる。
13	グループケア(小村)	グループケアについて、概要を理解し、意義を説明することができる。
14	グループケア(小村)	グループケアについて、概要を理解し、意義を説明することができる。
15	グループケア(小村)	グループケアについて、概要を理解し、意義を説明することができる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験				評価なし	優(3):80点以上
小テスト				評価なし	良(2):70点以上
宿題授業外レポート	○	○		80	可(1):60点以上
授業態度			○	評価なし	不可(0):60点未満 未修得
発表・作品				評価なし	
演習	○	○	○	20	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	渡辺 慎介、鈴木健明・他		実務経験紹介	渡辺(MTDLP基礎研修修了)、鈴木(MTDLP指導者)	

科目名	卒業研究A				単位数	1	時間数	30	
授業形態	実習	対象学生	OT 3年	学期	前期	教員実務経験	有	使用教室	207教室
授業概要	作業療法の研究とはどのようなことをするのか、研究に必要な基礎的な知識とは何かを学習する。								
一般目標	研究計画書を作成するために必要な知識を習得する。								
テキスト 参考書等	標準作業療法学 作業療法研究法第2版(医学書院)								

到達目標		
知識(認知領域) 研究を行うために必要な専門用語を理解し説明できる。		
技術(精神運動領域) 研究計画書を作成し、構想発表会にて発表することができる。		
態度(情意領域) グループワークに積極的に参加することができる。		
回数	授業内容	授業目標
1	・卒業研究とは(研究の手引きについて確認) ・研究目的と仮説について	研究目的と仮説について説明できる。
2	文献検索とその方法	文献検索の必要性について説明できる。文献研究について説明できる。
3	量的研究①	母集団、サンプリングとは何かを説明できる。調査研究の方法を説明できる。
4	量的研究②	調査票の作成方法を説明できる。
5	量的研究③	実験研究の方法を説明できる。事例研究の方法を説明できる。
6	量的研究④	量的研究で使用する統計解析の方法を説明できる。
7	質的研究①	質的研究の方法を説明できる。
8	質的研究②	質的データの収集ができる。
9	質的研究③	質的データの整理ができる。
10	質的研究④	質的データの整理ができる。質的データの分析方法を説明できる。
11	研究計画書の作成①	研究計画書の作成方法を説明できる。
12	研究計画書の作成②	グループワークで各自のテーマを話し合うことができる。
13	研究計画書の作成③	グループワークでグループのテーマを話し合うことができる。
14	研究計画の立案と発表(構想発表会)①	研究計画を発表できる。
15	研究計画の立案と発表(構想発表会)②	研究計画を発表できる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験				評価なし	優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGPA点数
小テスト				評価なし	
宿題授業外レポート	○	○		50	
授業態度				評価なし	
発表・作品	○	○	○	50	
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	
担当教員	上原 奈緒子		実務経験紹介	作業療法士として医療・保健施設、および教育機関での実務経験が20年以上である。	

科目名	卒業研究B				単位数	2	時間数	60	
授業形態	実習	対象学生	OT 3年	学期	前期・後期	教員実務経験	有	使用教室	207教室
授業概要	卒業研究Aで習得した研究に必要な基礎的な知識を用い、倫理審査書類を作成し研究に取り組む。								
一般目標	興味を持つテーマに関して、文献レビューを通して具体的な研究課題を見つける方法を習得する。 研究計画を作成し倫理審査書類を作成する方法を習得する。 研究を実施する方法を身につけ、結果をまとめたのちに考察する方法を習得する。								
テキスト 参考書等	標準作業療法学 作業療法研究法第2版(医学書院)								

到達目標

知識(認知領域)
研究を行うための基礎的知識と研究方法を説明できる。

技術(精神運動領域)
研究計画書を作成できる。倫理審査書類を作成することができる。研究計画に基づき研究を実施することができる。研究結果をまとめ、考察したものを発表できる。

態度(情意領域)
グループワークに積極的に参加できる。授業に参加できる。

回数	授業内容	授業目標
1	研究計画書作成手順について	研究計画書の作製方法を説明できる。
2	研究計画書の作成①	各指導教員の指導に従い研究計画書を作成することができる。
3	研究計画書の作成②	各指導教員の指導に従い研究計画書を作成することができる。
4	研究計画書の作成③	各指導教員の指導に従い研究計画書を作成することができる。
5	研究計画書の作成④	各指導教員の指導に従い研究計画書を作成することができる。
6	研究計画書の作成⑤	各指導教員の指導に従い研究計画書を作成することができる。
7	倫理審査書類作成の手順について	倫理審査書類の作製方法を説明できる。
8	倫理審査書類の作成①	各指導教員の指導に従い研究計画書を作成することができる。
9	倫理審査書類の作成②	各指導教員の指導に従い研究計画書を作成することができる。
10	倫理審査書類の作成③	各指導教員の指導に従い研究計画書を作成することができる。
11	倫理審査書類の作成④	各指導教員の指導に従い研究計画書を作成することができる。
12	倫理審査書類の作成⑤	各指導教員の指導に従い研究計画書を作成することができる。
13	研究の実施①	各指導教員の指導に従い研究を実施することができる。
14	研究の実施②	各指導教員の指導に従い研究を実施することができる。
15	研究の実施③	各指導教員の指導に従い研究を実施することができる。
16	研究の実施④	各指導教員の指導に従い研究を実施することができる。
17	研究の実施⑤	各指導教員の指導に従い研究を実施することができる。
18	研究結果のまとめ①	各指導教員の指導に従い研究結果をまとめることができる。
19	研究結果のまとめ②	各指導教員の指導に従い研究結果をまとめることができる。
20	研究結果のまとめ③	各指導教員の指導に従い研究結果をまとめることができる。
21	研究結果のまとめ④	各指導教員の指導に従い研究結果をまとめることができる。
22	研究結果のまとめ⑤	各指導教員の指導に従い研究結果をまとめることができる。
23	研究結果の考察①	各指導教員の指導に従い研究結果を考察することができる。
24	研究結果の考察②	各指導教員の指導に従い研究結果を考察することができる。
25	研究結果の考察③	各指導教員の指導に従い研究結果を考察することができる。
26	研究結果の考察④	各指導教員の指導に従い研究結果を考察することができる。
27	研究結果の考察⑤	各指導教員の指導に従い研究結果を考察することができる。
28	中間報告会資料作成	各指導教員の指導に従い中間報告会資料を作成できる。
29	中間報告会①	グループで実施した研究内容を発表できる。
30	中間報告会②	グループで実施した研究内容を発表できる。

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験				評価なし	優(3):80点以上
小テスト				評価なし	良(2):70点以上
宿題授業外レポート	○			60	可(1):60点以上
授業態度				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
発表・作品	○			40	
演習		○		評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	上原 奈緒子、濱本 尊博		実務経験紹介	作業療法士として医療・保健施設、および教育機関での実務経験が20年以上である(上原)。	

科目名	総合臨床実習技術論				単位数	1	時間数	15	
授業形態	講義	対象学生	OT 3年	学期	後期	教員実務経験	有	使用教室	207教室
授業概要	作業療法士国家試験過去問題(基礎医学、臨床医学、OT専門)を使用し、作業療法への理解を深める機会とする。								
一般目標	作業療法士国家試験過去問題を解くことができる。								
テキスト 参考書等	基礎固めヒント式トレーニング 基礎編(南江堂)								

到達目標									
知識(認知領域) ・国家試験過去問題を正しく解くことができる、また解説できる。									
技術(精神運動領域) ・なし									
態度(情意領域) ・授業に意欲的な態度で参加できる。・授業に参加できる。									

回数	授業内容	授業目標
1	基礎医学、臨床医学、OT専門の学習と習熟度確認(1)	基礎医学(解剖学・生理学、運動学、その他)、臨床医学(内科学等)、OT専門の国家試験過去問題を解くことができる。また、習熟度テスト(CBT)が100%で終了できる。
2	基礎医学、臨床医学、OT専門の学習と習熟度確認(2)	基礎医学(解剖学・生理学、運動学、その他)、臨床医学(内科学等)、OT専門の国家試験過去問題を解くことができる。また、習熟度テスト(CBT)が100%で終了できる。
3	基礎医学、臨床医学、OT専門の学習と習熟度確認(3)	基礎医学(解剖学・生理学、運動学、その他)、臨床医学(内科学等)、OT専門の国家試験過去問題を解くことができる。また、習熟度テスト(CBT)が100%で終了できる。
4	基礎医学、臨床医学、OT専門の学習と習熟度確認(4)	基礎医学(解剖学・生理学、運動学、その他)、臨床医学(内科学等)、OT専門の国家試験過去問題を解くことができる。また、習熟度テスト(CBT)が100%で終了できる。
5	基礎医学、臨床医学、OT専門の学習と習熟度確認(5)	基礎医学(解剖学・生理学、運動学、その他)、臨床医学(内科学等)、OT専門の国家試験過去問題を解くことができる。また、習熟度テスト(CBT)が100%で終了できる。
6	基礎医学、臨床医学、OT専門の学習と習熟度確認(6)	基礎医学(解剖学・生理学、運動学、その他)、臨床医学(内科学等)、OT専門の国家試験過去問題を解くことができる。また、習熟度テスト(CBT)が100%で終了できる。
7	基礎医学、臨床医学、OT専門の学習と習熟度確認(7)	基礎医学(解剖学・生理学、運動学、その他)、臨床医学(内科学等)、OT専門の国家試験過去問題を解くことができる。また、習熟度テスト(CBT)が100%で終了できる。
8	基礎医学、臨床医学、OT専門の学習と習熟度確認(8)	基礎医学(解剖学・生理学、運動学、その他)、臨床医学(内科学等)、OT専門の国家試験過去問題を解くことができる。また、習熟度テスト(CBT)が100%で終了できる。
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験				評価なし	優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得
小テスト				評価なし	
宿題授業外レポート	○			100	
授業態度			○	評価なし	
発表・作品				評価なし	
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	
担当教員	東野 幸夫		実務経験紹介	作業療法士としての経験を有している。また、国家試験対策に従事してきた。	

科目名	総合臨床実習技術論演習A				単位数	1	時間数	30	
授業形態	演習	対象学生	OT 3年	学期	後期	教員実務経験	有	使用教室	207教室・203・204教室
授業概要	作業療法の臨床活動に必要な基本的な知識と技術について学ぶ。								
一般目標	作業療法の臨床活動に必要な知識の概要を説明できる。また、技能は修得できる。								
テキスト 参考書等	各教員に指定された教科書等を持参する。								

到達目標		
知識(認知領域) ・作業療法の代表的評価が説明できる。・リスクマネジメント等臨床活動に必要な知識について説明できる。		
技術(精神運動領域) ・なし		
態度(情意領域) ・授業に意欲的な態度で参加できる。・実習報告会で意欲的に参加できる。		
回数	授業内容	授業目標
1	病棟におけるリスクマネジメント(山下)	病棟におけるリスクマネジメントについてを理解することができる。
2	レジリエンス・ストレスコーピング(三宅)	臨床実習に赴くための心構えができる。
3	救命救急法(加藤) (日本赤十字基礎講習)	救命救急法について理解し実施することができる。
4	救命救急法(加藤) (日本赤十字基礎講習)	救命救急法について理解し実施することができる。
5	感染予防(山下)	感染予防について理解し実施することができる。
6	喀痰吸引法(濱本・看護学科教員)	喀痰吸引法について理解し実施することができる。
7	喀痰吸引法(濱本・看護学科教員)	喀痰吸引法について理解し実施することができる。
8	臨床実習B I 期 事例報告会 事前ゼミ	実習終了後、ゼミと自習を通して担当の症例について深く学ぶ。また、報告会で適切に伝達する準備ができる。
9	臨床実習B I 期 事例報告会 事前ゼミ	実習終了後、ゼミと自習を通して担当の症例について深く学ぶ。また、報告会で適切に伝達する準備ができる。
10	臨床実習B I 期 事例報告会 事前ゼミ	実習終了後、ゼミと自習を通して担当の症例について深く学ぶ。また、報告会で適切に伝達する準備ができる。
11	臨床実習B I 期 事例報告会 事前ゼミ	実習終了後、ゼミと自習を通して担当の症例について深く学ぶ。また、報告会で適切に伝達する準備ができる。
12	臨床実習B I 期 事例報告会	実習終了後、ゼミと自習を通して担当の症例について深く学び、報告会で評価・目標・治療などを適切に伝達できる。
13	臨床実習B I 期 事例報告会	実習終了後、ゼミと自習を通して担当の症例について深く学び、報告会で評価・目標・治療などを適切に伝達できる。
14	臨床実習B I 期 事例報告会	実習終了後、ゼミと自習を通して担当の症例について深く学び、報告会で評価・目標・治療などを適切に伝達できる。
15	臨床実習B I 期 事例報告会	実習終了後、ゼミと自習を通して担当の症例について深く学び、報告会で評価・目標・治療などを適切に伝達できる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	優(3):80点以上
小テスト				評価なし	良(2):70点以上
宿題授業外レポート				評価なし	可(1):60点以上
授業態度				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
発表・作品	○			評価なし	
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	上原 奈緒子、石丸 拓也、他		実務経験紹介	各担当者が各領域での作業療法を実践した経験を10年以上有している(上原、石丸)。	

科目名	臨床実習(地域実習)				単位数	1	時間数	45	
授業形態	実習	対象学生	OT 3年	学期	前期・後期	教員実務経験	有	使用教室	各実習施設
授業概要	医療・福祉関係のイベント等に参加する。								
一般目標	地域における作業療法士の役割の概要を説明できる。また、技能を習得できる。								
テキスト参考書等	適宜、資料配布する。								

到達目標		
知識(認知領域) ・地域における作業療法の内容、過程、治療手段等を説明できる。・参加イベントの概要や意義を説明できる。		
技術(精神運動領域) ・参加イベントでスタッフとして活動し、貢献できる。		
態度(情意領域) ・実習に意欲的な態度で参加できる。・能動的な態度で参加できる。		
回数	授業内容	授業目標
1	認知症カフェへの参加(濱本) (予定)	認知症カフェに参加できる。認知症カフェの概要や意義を説明できる。
2	認知症カフェへの参加(濱本) (予定)	認知症カフェに参加できる。認知症カフェの概要や意義を説明できる。
3	地域ケア会議への参加(石丸) (予定)	地域ケア会議に出席できる。多職種連携によって、個々の利用者のケアプランが検討されている概要が説明できる。
4	地域ケア会議への参加(石丸) (予定)	地域ケア会議に出席できる。多職種連携によって、個々の利用者のケアプランが検討されている概要が説明できる。
5	宇部市チャレンジデーへの参加(石丸) (予定)	宇部市チャレンジデーに参加できる。宇部市チャレンジデーの概要や意義を説明できる。
6	宇部市チャレンジデーへの参加(石丸) (予定)	宇部市チャレンジデーに参加できる。宇部市チャレンジデーの概要や意義を説明できる。
7	ご近所福祉ボランティアへの参加(渡辺) (予定)	ご近所福祉に参加できる。ご近所福祉の概要や意義を説明できる。
8	ご近所福祉ボランティアへの参加(渡辺) (予定)	ご近所福祉に参加できる。ご近所福祉の概要や意義を説明できる。
9	実習経験伝達会 準備会	実習経験伝達会に向けて伝達会の目的等を説明できる。また、発表練習ができる。
10	実習経験伝達会 準備会	実習経験伝達会に向けて伝達会の目的等を説明できる。また、発表練習ができる。
11	実習経験伝達会 準備会	実習経験伝達会に向けて伝達会の目的等を説明できる。また、発表練習ができる。
12	実習経験伝達会 準備会	実習経験伝達会に向けて伝達会の目的等を説明できる。また、発表練習ができる。
13	実習経験伝達会 本番	実習経験伝達会で、自分自身の経験を十分に第三者に伝えられるようなプレゼンテーションが実施できる。
14	実習経験伝達会 本番	実習経験伝達会で、自分自身の経験を十分に第三者に伝えられるようなプレゼンテーションが実施できる。
15	実習経験伝達会 本番	実習経験伝達会で、自分自身の経験を十分に第三者に伝えられるようなプレゼンテーションが実施できる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験				評価なし	優(3):80点以上
小テスト				評価なし	良(2):70点以上
宿題授業外レポート	○			100	可(1):60点以上
授業態度			○	評価なし	不可(0):60点未満 未修得
発表・作品				評価なし	
演習		○		評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	濱本 尊博、石丸 拓也、他		実務経験紹介	各担当者が各領域での作業療法を実践した経験を10年以上有している(濱本、石丸)。	

科目名	臨床実習B				単位数	6	時間数	270	
授業形態	実習	対象学生	OT 3年	学期	後期	教員実務経験	有	使用教室	各実習施設
授業概要	医療・福祉関連の実習施設で、基本的な作業療法過程を経験する。								
一般目標	各疾患において用いられる評価を経験し、評価技術を身につけるとともに各評価の意義説明できる。また、評価結果から問題点を抽出し、治療目標の設定、さらには治療計画の立案をすることができる。								
テキスト参考書等	臨床実習Bガイドブック 適宜、資料を配布する。								

到達目標

知識(認知領域)
・対象者の疾患と治療の概要を説明できる。・対象者について、一般的な作業療法評価の過程が説明できる。

技術(精神運動領域)
・対象者について、一般的な作業療法評価の過程に関連した情報を収集できる。また、文書化できる。

態度(情意領域)
・実習に意欲的に参加できる。・課題等を期日までに提出できる。

回数	授業内容	授業目標
	臨床実習B I期	I期:2021年11月15日(月)～11月10日(金) 4週間 <評価> ・対象者の疾患と治療の概要を理解する。 ・担当事例特有の症状とそれに対する医学的治療方針もしくは支援方針を理解する。 ・必要な面接、観察、検査、測定項目を列挙する。 ・面接、観察、検査、測定項目を列挙する。 ・得られた情報や検査、測定の結果を記録する。 ・得られた情報や検査、測定の結果を基に問題点を列挙する。 ・問題点を整理する。 <目標設定> ・障害の変化を予測する。 ・長期目標を設定する。 ・短期目標を設定する。 <治療計画の立案> ・必要な治療や指導を列挙する。 ・実施する治療計画を具体的に立案する。
	臨床実習B I期 実習報告会	2020年11月予定
	臨床実習B II期	II期: 2022年1月11日(火)～2月4日(金) 4週間 <評価> ・対象者の疾患と治療の概要を理解する。 ・担当事例特有の症状とそれに対する医学的治療方針もしくは支援方針を理解する。 ・必要な面接、観察、検査、測定項目を列挙する。 ・面接、観察、検査、測定項目を列挙する。 ・得られた情報や検査、測定の結果を記録する。 ・得られた情報や検査、測定の結果を基に問題点を列挙する。 ・問題点を整理する。 <目標設定> ・障害の変化を予測する。 ・長期目標を設定する。 ・短期目標を設定する。 <治療計画の立案> ・必要な治療や指導を列挙する。 ・実施する治療計画を具体的に立案する。
	臨床実習B II期 実習報告会	2021年2月予定

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験				評価なし	優(3):80点以上
小テスト				評価なし	良(2):70点以上
宿題授業外レポート	○			100	可(1):60点以上
授業態度			○	評価なし	不可(0):60点未満 未修得
発表・作品				評価なし	
演習		○		評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	上原奈緒子		実務経験紹介	作業療法士として20年以上の経験を有している。日本作業療法士協会「臨床実習指導者講習」修了	

科目名	卒業研究C					単位数	1	時間数	30	
授業形態	演習	対象学生	OT 3年 OT 4年	学期	前期・後期 前期	教員実務経験	有	使用教室	207教室	
授業概要	卒業研究A・Bで習得した、研究に必要な基礎知識を用い、卒業論文を作成し発表する。									
一般目標	卒業論文作成・発表のために必要な知識を習得する。									
テキスト 参考書等	標準作業療法学 作業療法研究法第2版(医学書院)									

到達目標

知識(認知領域)
研究論文作成にあたり必要な基礎知識を説明できる。

技術(精神運動領域)
卒業論文を作成し発表することができる。

態度(情意領域)
グループワークに積極的に参加することができる。

回数	授業内容	授業目標
1	卒業論文作成①	論文を作成できる。
2	卒業論文作成②	論文を作成できる。
3	卒業論文作成③	論文を作成できる。
4	卒業論文作成④	論文を作成できる。
5	卒業論文作成⑤	論文を作成できる。
6	卒業論文作成⑥	論文を作成できる。
7	卒業論文作成⑦	論文を作成できる。
8	卒業論文作成⑧	論文を作成できる。
9	卒業論文作成⑨	論文を作成できる。
10	卒業論文作成⑩	論文を作成できる。
11	卒業論文発表会①	研究成果を発表できる。
12	卒業論文発表会②	研究成果を発表できる。
13	卒業論文発表会③	研究成果を発表できる。
14	卒業論文発表会④	研究成果を発表できる。
15	まとめ	授業を振り返り、ノート等にまとめることができる。

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験				評価なし	優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGPA点数
小テスト				評価なし	
宿題授業外レポート	○			60	
授業態度				評価なし	
発表・作品	○			40	
演習		○		評価なし	
出席			○	欠格条件	
担当教員	上原奈緒子、他		実務経験紹介	作業療法士として医療・保健施設、および教育機関での実務経験が20年以上である。	